

第3回八代市景観まちづくり会議



ニュース vol.3

冬の寒さがいっそう厳しくなってきた1月24日(水)、「第3回八代市景観まちづくり会議」を開催しました。会議には市内の各地域、各団体から25名の参加がありました。

会議の冒頭、熊本県立大学の柴田祐教授からフットパス(風景を楽しみながら歩くことができる小径)を活用した景観まちづくりの取り組みについて紹介がありました。

グループワークでは、第2回会議の意見を踏まえ設定した景観特性の異なる12エリアについて、フットパスからの眺めをもとに景観のあり方を検討しました。「自然・みどり」「生活・まち」「歴史・文化」の3グループに分かれて、各エリアのキャッチフレーズや景観まちづくりの方向性・ルール、自分達ができる景観まちづくり活動について意見を出し合いました。

プログラム

- 19:00 1. 開会・あいさつ
- 19:05 2. 全体の流れと本日のプログラム説明
- 19:15 3. 柴田先生のアドバイス
- 19:25 4. “お宝景観”のあり方を考えよう！
- 20:45 5. 柴田先生の講評
- 21:00 6. 閉会・あいさつ

テーマ：“お宝景観”のあり方を考えよう！

～お宝景観の特定とあり方の検討～

場 所： やつしろハーモニーホール3F 大会議室A

▼ 八代市景観計画策定の流れ ▼ ワークショップの様子

やつしろ景観まちづくりセミナー (7/30)

八代市景観まちづくり会議		
テーマ	回	主な目的
資源の洗出し	第1回 (9/5)	・景観資源の洗出しと、重点テーマの検討
	第2回 (10/14)	・まち歩きワークショップ
資源の方向づけ・エリア毎の方向性	第3回 (1/24) 今回	・特性・課題整理と景観のあり方検討 ・景観ゾーニングと方針検討
ブランド化に向けた戦略	第4回 (2/28)	・景観ルール検討 ・八代景観ブランド構築に向けた戦略検討 ・景観提言書(案)検討

景観まちづくり提言書(仮称)

八代市景観計画(素案)

住民説明会・パブリックコメント

景観シンポジウム

八代市景観計画(案)

市内検討会議

策定委員会

<自然・みどり班>



<生活・まち班>



<歴史・文化班>





■各班の成果【自然・みどり班】

○山村集落のフットパス

キャッチフレーズ

四季の移ろい／棚田／自然豊か

特性

山間部に形成された山村集落を中心としたフットパスです。

本市の東部は、九州中央山地国定公園や、五木五家荘県立自然公園に指定された山間部となっており、四季折々の変化にとんだ風景が地域の人々や訪れる人の目を惹きつけています。

山間部には、美生の棚田をはじめとする生産性や水稲の棚田、茶の段々畑など一体となった山村集落が点在し、文化的景観を形成しています。

景観づくりのイメージ

私たちにできること

河川のゴミ拾い、清掃





③山村集落のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

四季の移ろい／棚田／自然豊か

【景観のあり方】

- ・ピンクの(鹿避け)ネット・テープが気になる
- ・洋風の建物が多いことが気になる
- ・メガソーラーは目立たない所に設置してほしい
- ・周囲と調和した色の家
- ・河川のゴミはなくしたい
- ・看板は田園風景に配慮してほしい
- ・大きい看板はやめてほしい

【私たちにできること】

- ・河川のゴミ拾い、清掃
- ・玄関先のちょっとした花植え

【その他】

- ・泉支所の周りのフットパスは回遊できない

○河川のフットパス

キャッチフレーズ

球磨川

キャッチフレーズの説明

特性

河川沿いの散歩やサイクリングを楽しむフットパスです。

球磨川や水川、流瀬川等の河川は、本市の水と緑の景観軸を形成しています。

球磨川の悠然とした流れは市のシンボルとなっており、川を渡る橋や土手からは市街地景観や、山並み景観などを遠望することができます。

また、流瀬川沿いは自然を楽しむ川辺の散歩道として人気があります。

景観づくりのイメージ

私たちにできること

ゴミ拾い・犬のフンの処理





④河川のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

球磨川

【景観のあり方】

- ・マナーの向上も必要
- ・「犬のフンをとってください」の看板が目立つ
- ・河川に降りる所がない
- ・目立ちすぎないガードレールにする
- ・コスモス街道は良かった
- ・斜面の採石場が気になる
- ・緑化をすべき
- ・河川はゴミが少なくなった
- ・関係部局との調整は必要である
- ・老人クラブの方が紫陽花を綺麗にしていた
- ・ベンチの設置
- ・子供達が遊べる親水空間が欲しい

【私たちにできること】

- ・ゴミ拾い・犬のフンの処理

■各班の成果【生活・まち班】

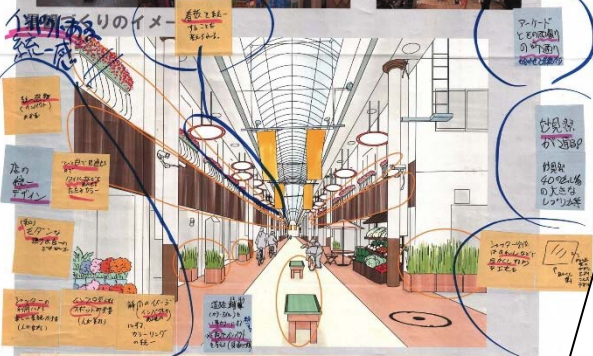
○本町アーケード街のフットパス

キャッチフレーズ

キャッチフレーズの説明

特性

全長約730mに渡る本町アーケード商店街を中心としたフットパスです。
本町アーケード商店街には、飲食店や衣料店などを中心に約150店舗が軒を連ねています。
休憩所や広場があり、商店街近くにはお寺や神社も多く、八代の歴史を感じることができます。
また、商店街では「土曜夜市」などのまちの賑わいを創出するイベント活動が行われています。



私たちにできること

- ・ 商店時間をのびす。統一する。
- ・ インバウンド景観づくりに向けた協力・協議 → いくす。統一感ある！
- ・ お茶のサービス

①本町アーケード街のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・ インパクトのある統一感
- ・ 1～4丁目でカラーやテーマを変えることも必要では
- ・ 「おっ」と言わせる統一感のある通り
- ・ にぎわいづくりにつながる景観ができるのか
- ・ 誰を意識して景観を考えるのか

【景観のあり方】

- ・ 統一感(インパクト)が必要である
- ・ 統一した店のデザイン
- ・ 和モダンな通りが良い
- ・ シャッターの利用による楽しい景観が必要である
- ・ インスタ映えするスポットが必要(人が集まる)
- ・ 道路舗装(カラータイル)をイ草カラーに統一する
※色でインパクトを与える(見通せる道)
- ・ アーケードとその両側の町通りも合わせた景観づくり
- ・ 妙見祭神幸行列が通るアーケード
- ・ 妙見祭の出し物の大きなレプリカ等
- ・ シャッター空間はのれんなどで目隠しするような工夫が必要(目隠しは妙見祭を織り込んだデザイン)

【私たちにできること】

- ・ 開店している時間をのびし、閉店する時間を統一する
- ・ インパクトのある景観づくりに向けた協力・協調
→ イグサで統一感をだす！など
- ・ お茶のサービス

○日奈久温泉街周辺のフットパス

キーワード

キャッチフレーズ

キャッチフレーズの説明

特性

日奈久温泉街周辺の歴のある路地を中心としたフットパスです。
600年の歴史を持つ日奈久温泉は、熊本県内で最も古い温泉のひとつです。
日奈久温泉街には、なまこ壁や木造建造物の街並みが残り、ところどころ小さなお寺や神社をみつけることができます。
複数の相模場がある日奈久温泉神社からは日奈久の市街地と八代海を見ることができ、良好な観望点となっています。



私たちにできること

- ・ 景観をのびす。統一する。
- ・ インバウンド景観づくりに向けた協力・協議 → いくす。統一感ある！
- ・ お茶のサービス

②日奈久温泉街周辺のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・ レトロ

【景観のあり方】

- ・ 手作りのお金のかからない街灯づくり(LEDなど)
- ・ 石畳など湯町に合った舗装・街灯
- ・ 利用者の使い勝手の良い(車を使いやすい)道路が良い
- ・ 統一したユニホームで商いをする
- ・ 住宅と商店とを、どう工夫で統一させるか
- ・ 統一感を持たせる
- ・ 通りごとにコンセプトに合ったデザインの統一
- ・ 昔からある建物にあわせたデザイン
- ・ 竹や木、イ草を使った休憩スペースづくり
- ・ 竹細工のある空間を統一させる(旅館ごとに方針が違っている)
- ・ 空調室外機などの目隠しも統一した方がよい
- ・ シャッターはすだれなどで目隠しできる(デザインされた大きなのれんでも可)

【私たちにできること】

- ・ あまりお金を使わないでできる景観づくり
- ・ すだれでシャッターを修景
- ・ のれんで統一感を出して修景

■各班の成果【生活・まち班】

○郊外住宅地のフットパス

キャッチフレーズ
(3) お家のまわり、お家のまわり、お家のまわり

キャッチフレーズの説明
緑豊かな！

特性
郊外部の住宅地を中心としたフットパスです。市街地周辺の郊外部では住宅地の開発が進み、公設の整備と併せて、くらしに潤いや安らぎを与える環境づくりが求められています。

景観づくりのイメージ
建物の色合い
お家のまわり、お家のまわり、お家のまわり
お家のまわり、お家のまわり、お家のまわり

私たちにできること
お家のまわり、お家のまわり、お家のまわり
お家のまわり、お家のまわり、お家のまわり

③郊外住宅地のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・緑豊かな！
- ・オープンガーデンなどを見てもらう取り組み
- ・自分たち以外にも楽しんでもらう
- ・楽しむまち(同世代の人たちが集まって楽しむまち)

【景観のあり方】

- ・建物の色彩には配慮すべき
- ・オープンガーデンを競い合うようなまちになると良い
- ・無理のない程度のルールはあって良いと思う
- ・街路樹は維持管理しやすいものが良い

【私たちにできること】

- ・家まわりの緑化
- ・周辺の掃除

【その他】

- ・引き算の景観づくり→不要なものはつけない

○幹線道路沿線のフットパス

キャッチフレーズ
ハイクラスなまちづくり

キャッチフレーズの説明
ハイクラスなまちづくり

特性
人々の活動を支える幹線道路沿線のフットパスです。市内を南北に走る国道3号や国道219号、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道、東西に走る国道443号、県道八代港線(臨港線)等が本市の幹線道路となっています。国道3号や県道八代港線(臨港線)などの幹線道路の沿道には商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観となっています。

景観づくりのイメージ
看板最低限、まわりと合わせたもの
看板最低限、まわりと合わせたもの
看板最低限、まわりと合わせたもの

私たちにできること
看板最低限、まわりと合わせたもの
看板最低限、まわりと合わせたもの
看板最低限、まわりと合わせたもの

④幹線道路沿線のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・八代の良い印象を与えるような景観づくり

【景観のあり方】

- ・看板は最低限、周りと合ったものに
- ・目立った看板があると目印になるし、都会的な感じもする
- ・最近、全国チェーンのお店は、地元に合わせて景観にしてくれている
- ・にぎわい！
- ・幹線道路なので、大型車なども多い→外部の人に良いイメージが伝わる
- ・電線がなく見通しが良い通りは良いと思う
- ・ポイントを絞って、重点的に景観づくりをすることで、モデル的な景観となる
- ・それを他へも波及していく
- ・ポイントを絞る(バスの駐車場になるようなポイントでは、文化的な景観にするなど)

■各班の成果【歴史・文化班】

○八代城跡・市役所周辺のフットパス



①八代城跡・市役所周辺のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・昔を今につなぐ
- ・加藤正方の名を(加藤清正の家老)

【景観のあり方】

- ・景観を阻害しないような案内板の設置
- ・八代城跡周りの建物は、調和した色で雰囲気(派手な色は控える)
- ・正門(高麗門)の復元
- ・市役所と八代城跡との間の道を歩行者専用にする
- ・厚生会館ビロティカフェの2Fテラスから石垣を見る
- ・樹木の保存(市役所・裁判所・博物館)
- ・城を舞台にした彦一とんち話が分かるサイン
- ・内堀以外のお堀跡の水路の修景・サイン
- ・サイン、舗装(ここに何が合ったか分かるように)
- ・埋没文化財の活用
- ・ライトアップや竹の明かり等のイルミネーションの活用
- ・天守閣に向けてのライトアップを2回行ったので、もっとPRをすると良い
- ・休憩できる場づくり
- ・城前の桜並木がキレイ
- ・ベンチがもっとあったらよい
- ・八代城跡中、長堀、小天守、大天守跡がよく見える南側にベンチを設置する
- ・魚が見えるように、お堀の水の浄化を
- ・市民が集まる仕組みづくり(ラジオ体操、ベンチにボードゲーム、イベント広場の設置、ランニング用に城一周kmの表示)
- ・お堀周辺をもっと楽しみながら歩ける場所に
- ・はすの花が咲く頃がきれい
- ・お堀沿いの休憩場を歩く人に、もっとわかるようにする
- ・よい
- ・神社への参拝の案内、仕方等に関する表示や説明も必要ではないか
- ・松江城をつくった加藤正方氏の銅像をつくる

【私たちにできること】

- ・お堀の水をきれいにする
- ・四季の花を植える

○鉄道沿線のフットパス



②鉄道沿線のフットパス

■各班の成果【歴史・文化班】

○城下町の風情が残る街並みのフットパス



③城下町の風情が残る街並みのフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・城下町
- ・薩摩街道の玄関口

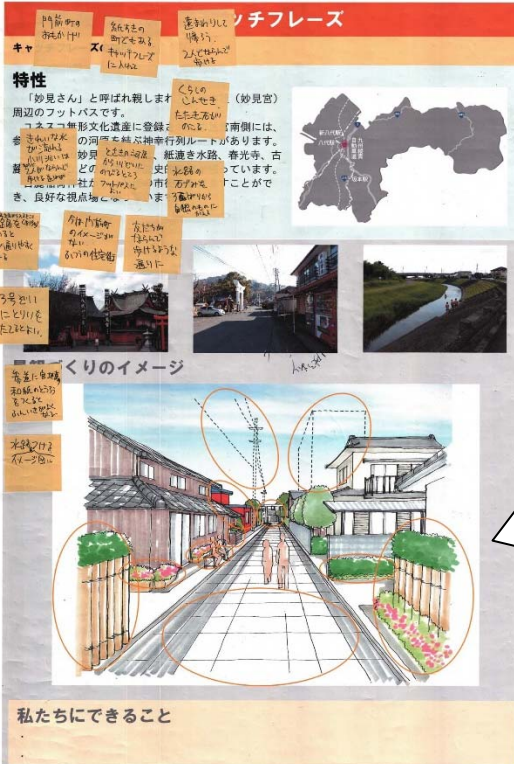
【景観のあり方】

- ・城下町の町割りが残る町屋の保全・修理に係る助成を
- ・笹垣は建築協定があるところに残っている
- ・昔の夏祭りで行っていた、鬼灯市や朝顔市などにつながるものを設置しては？
- ・旧前川の堤側に、雰囲気の良い路地が残る
- ・旧町名を通りに表示すると、武家と町人の家が分かる
- ・薩摩街道沿いの商家が残っている
- ・薩摩街道の通る場所に舗装や辻灯籠を
- ・統一した考え方、コンセプトがまちづくりには必要

【私たちにできること】

- ・住民の方に情報発信
- ・笹垣の剪定

○妙見宮周辺のフットパス



④妙見宮周辺のフットパス

【キャッチフレーズ(キーワード・考え方)】

- ・門前町の面影
- ・紙漉きの町
- ・遠回りして帰ろう

【景観のあり方】

- ・暮らしの痕跡、たたき石が残る
- ・きれいな小川沿いは2人並んで歩ける道幅
- ・砥崎の河原から川沿いにのびる所はフットパスに良い
- ・水路の石積みをも3面張りから自然のものに変える
- ・3号線から入るところの水路(旧3号/現県道)を埋めると、車が通りやすくなる
- ・今は門前町のイメージがない普通の住宅街
- ・友達が並んで歩けるような通りに
- ・国道3号沿いに鳥居を建てると良い
- ・参道に宮地産の和紙の灯籠を作ると雰囲気が良くなる
- ・水路をイメージ図につける



熊本県美里町におけるフットパスを活用した景観まちづくりについて、柴田教授が実際に取り組まれたことを紹介していただきました。

- ・フットパスはイギリスが発祥で、100 年以上前から産業革命で裕福になった人が行う余暇活動の取り組みとして発展してきた。
- ・熊本県の美里町は、全国的にみても先進的な取り組みを行っていることで有名である。
- ・フットパスコースには、かならずコースの地図があって、マップの収集家もいる。
- ・美里町には、田舎道を歩くフットパスコースが 15 コースあって、マップはそれぞれ1枚 100 円で販売されている。
- ・ウォーキングイベントの際には、熊本市や福岡市から多くの人々が来ている。
- ・ウォーキングイベントから帰ってきて、地元の方が作った晩御飯をみんなで食べながら棚田に映える夕日を眺める。これが一連のフットパスイベントの流れとなっている。
- ・1人あたり 2,500 円の参加費を徴収しているが、すぐに募集人員の 30 名に達した。
- ・参加費で地元の方が料理などを振舞う。
- ・フットパスは、イベントの時に限らず、普段から地図を見ながら自由に歩いてもらう場所である。
- ・なぜ、フットパスが景観まちづくりにつながるのか？人が来ると、地元の人が歩きやすいように道を整備してくれる。フットパス沿いに花を植える。こういう活動が景観まちづくりにもつながっていく。
- ・農家の人達と学生が交流するなかで、商品にならないみかんや梨の商品開発につながり、地域が元気になってきた。
- ・悪いところがないのがフットパスの取り組み。
- ・今回は、地元の人に皆さんがフットパスを提案していく場だととらえている。
- ・次のまちづくりにつながるような気持ちで取り組んでいただきたい。

会議を終えて

- ・景観を現在、未来、良い、悪いという軸でとらえると、現在の良いところは「守る」、悪いところは「取り除く、揃える」にあたる。
- ・未来に向かって悪いものは「禁止」し、良くすることが一番難しいところで、ここが「育む」、いわゆる景観まちづくりにあたる。
- ・問題なのは「誰が」するのかということ。景観まちづくりは行政だけでは実行できない。
- ・住民の方の協力が必要である。これからも皆さんにご協力いただきたい。

